

定期作況報告

平成18年11月
(11月20日現在・最終)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：平均気温は上・中旬は平年より極めて低く、下旬は平年より低かった。日平均気温の月平均は1.7℃で平年より-2.9℃と極めて低かった。降水量は各旬とも平年より極めて多く、月合計は98.0mmで平年より極めて多かった。日照時間は上・中旬は平年よりやや短く、下旬は平年並であり、月合計は115.2時間で平年よりやや短かった。

5月：平均気温は上旬は平年よりやや低く、中旬は平年より極めて高く、下旬は平年よりやや低かった。日平均気温の月平均は10.8℃で平年並み(+0.2℃)であった。降水量は上旬・中旬は平年並みで、下旬は平年より極めて多く、月合計は92.5mmで、平年より多かった。日照時間は上・中旬は平年より長く、下旬は平年並であり、月合計は186.5時間で平年よりやや長かった。

6月：平均気温は上旬は平年より低く、中旬は平年よりやや低く、下旬は平年よりやや高かった。日平均気温の月平均は14.0℃で平年並み(-0.4℃)であった。降水量は上旬は平年よりやや多く、中旬は平年より少なく、下旬は平年並みであり、月合計は49.5mmで、平年並みであった。日照時間は上・中旬は平年よりやや短く、下旬は平年並であり、月合計は202.6時間で平年より長かった。

7月：平均気温は上旬は平年より高く、中旬は平年よりやや高く、下旬は平年より低かった。日平均気温の月平均は18.7℃で平年並み(+0.3℃)であった。降水量は上・下旬は平年より少なく、中旬は平年よりやや多く、月合計は62.5mmで、平年より少なかった。日照時間は上旬は平年より極めて長く、中旬は平年よりやや短く、下旬は平年より長く、月合計は181.6時間で平年より長かった。

8月：平均気温は各旬とも平年より極めて高かった。日平均気温の月平均は22.0℃で平年より+3.4℃と極めて高かった。降水量は上旬は平年よりやや少なく、中旬は平年より極めて多く、下旬は平年より多く、月合計は279.5mmで、平年より極めて多かった。日照時間は上・下旬は平年より長く、中旬は平年並であり、月合計は169.6時間で平年よりやや長かった。

9月：平均気温は上・中旬は平年よりやや高く、下旬は平年並みであった。日平均気温の月平均は15.3℃で平年より+0.5℃とやや高かった。降水量は上・中旬は平年より少なく、下旬は平年より多く、月合計は75.0mmで、平年より少なかった。日照時間は上・中旬は平年並み、下旬は平年より長く、月合計は159.1時間で平年よりやや長かった。

10月：平均気温は上旬は平年よりやや高く、中旬は平年並み、下旬は平年より低かった。日平均気温の月平均は7.8℃で平年より-0.7℃とやや低かった。降水量は上旬は平年より極めて多く、中旬は平年より多く、下旬は平年より極めて少なく、月合計は193.0mmで、平年より極めて多かった。日照時間は各旬とも平年並みで、月合計は168.0時間で平年並みであった。

11月：平均気温は上旬は平年より極めて高く、中旬は平年よりやや高かった。日平均気温の中旬までの平均は4.6℃で平年より+2.4℃と高かった。降水量は上・中旬ともは平年より極めて多く、中旬までの合計は59.5mmで、平年より極めて多かった。日照時間は上旬は平年並み、中旬は平年並みで、中旬までの合計は68.2時間で平年並みであった。

注) 降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

農耕期間中（５月～９月）の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

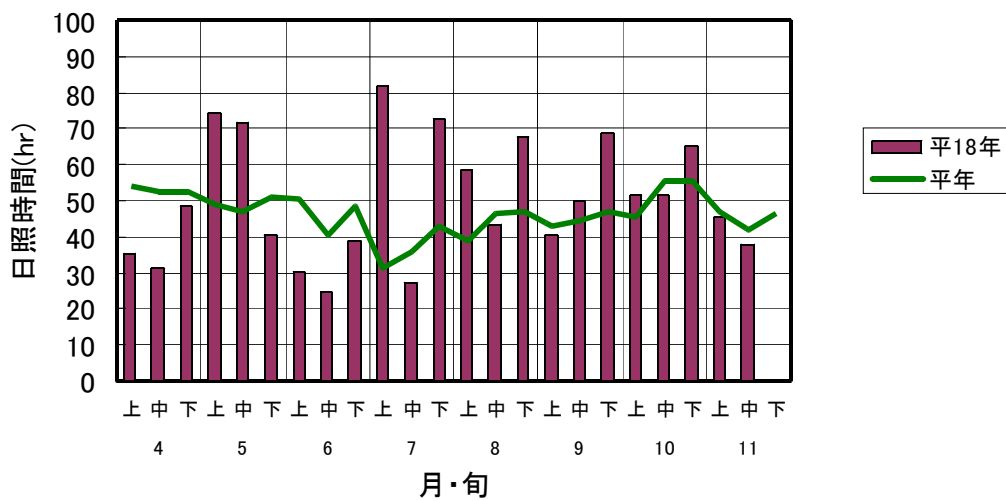
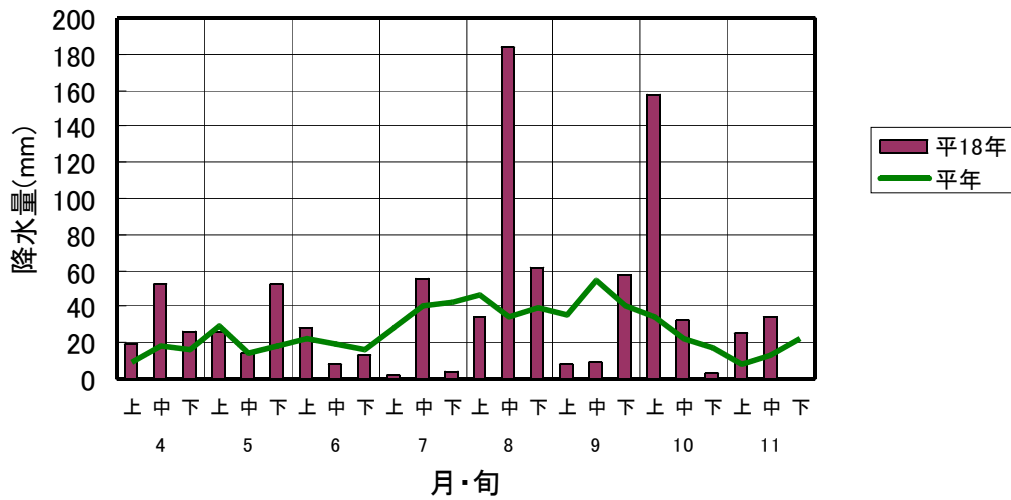
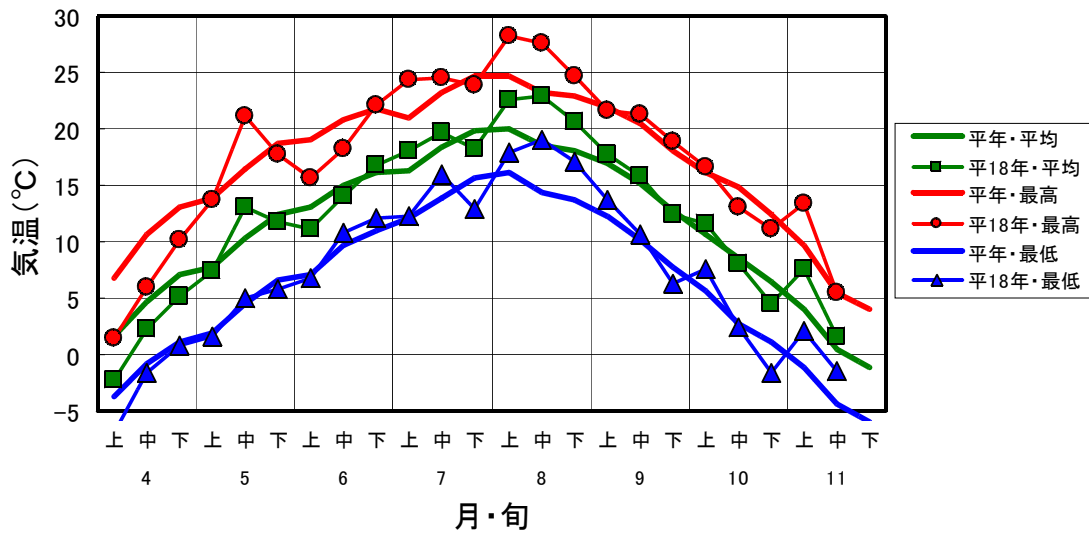
気温：５月、６月、７月は平年並み(+0.3℃)、８月は平年より極めて高く、９月は、平年よりやや高かった。この期間の平均気温の積算値は2474.0℃(平年比+120.3℃)であった。

降水量：５月は平年より多く、６月は平年並み、７月は平年より少なく、８月は平年より極めて多く、９月は平年より少なかった。この期間の降水量の積算は559.0mm(平年比+68.9mm)であった。

日照時間：５月、８月は平年よりやや長く、６月、７月、９月は平年より長かった。この期間の日照時間の積算は899.4時間(平年比+263.1時間)であった。

以上のことから、本年の農耕期間中の気象は、気温は平年よりやや高く、降水量は平年並み、日照時間は平年より長かった。

2. 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3. 気象表

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる。平年値は前10か年の平均値である。

月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
4	上	-2.3	1.6	△ 3.9	1.5	6.7	△ 5.2	-6.9	-3.8	△ 3.1	19.0	9.5	9.5	35.2	54.0	△ 18.8
	中	2.3	4.7	△ 2.4	6.0	10.6	△ 4.6	-1.6	-0.8	△ 0.8	52.5	18.0	34.5	31.3	52.4	△ 21.1
	下	5.1	7.0	△ 1.9	10.1	13.1	△ 3.0	0.8	1.1	△ 0.3	26.5	15.9	10.6	48.7	52.3	△ 3.6
5	上	7.4	7.8	△ 0.4	13.7	13.9	△ 0.2	1.5	1.9	△ 0.4	26.0	28.8	△ 2.8	74.4	49.2	25.2
	中	13.1	10.3	2.8	21.1	16.4	4.7	4.9	4.5	0.4	14.0	13.8	0.2	71.5	47.1	24.4
	下	11.8	12.5	△ 0.7	17.8	18.7	△ 0.9	5.8	6.6	△ 0.8	52.5	18.0	34.5	40.6	50.8	△ 10.2
6	上	11.2	13.0	△ 1.8	15.7	19.1	△ 3.4	6.8	7.1	△ 0.3	28.0	22.4	5.6	30.2	50.3	△ 20.1
	中	14.1	15.0	△ 0.9	18.3	20.9	△ 2.6	10.8	9.6	1.2	8.0	19.6	△ 11.6	24.7	40.5	△ 15.8
	下	16.8	16.2	0.6	22.0	21.7	0.3	12.1	11.0	1.1	13.5	16.0	△ 2.5	38.7	48.3	△ 9.6
7	上	18.1	16.3	1.8	24.3	21.0	3.3	12.3	12.1	0.2	2.0	28.1	△ 26.1	81.7	31.5	50.2
	中	19.7	18.3	1.4	24.6	23.2	1.4	16.0	13.9	2.1	56.0	40.4	15.6	27.3	36.1	△ 8.8
	下	18.3	19.9	△ 1.6	23.9	24.7	△ 0.8	12.9	15.6	△ 2.7	4.5	42.6	△ 38.1	72.6	43.1	29.5
8	上	22.5	20.0	2.5	28.2	24.6	3.6	17.9	16.2	1.7	34.5	46.8	△ 12.3	58.4	38.7	19.7
	中	23.0	18.6	4.4	27.6	23.2	4.4	19.1	14.3	4.8	183.5	34.2	149.3	43.3	46.3	△ 3.0
	下	20.6	18.1	2.5	24.6	22.8	1.8	17.0	13.7	3.3	61.5	38.9	22.6	67.9	47.0	20.9
9	上	17.7	17.0	0.7	21.6	21.9	△ 0.3	13.7	12.2	1.5	8.5	35.0	△ 26.5	40.5	43.1	△ 2.6
	中	15.8	15.2	0.6	21.4	20.4	1.0	10.7	10.2	0.5	9.0	54.1	△ 45.1	49.9	44.2	5.7
	下	12.4	12.7	△ 0.3	18.9	18.0	0.9	6.3	7.7	△ 1.4	57.5	40.0	17.5	68.7	46.9	21.8
10	上	11.6	10.7	0.9	16.6	16.2	0.4	7.6	5.6	2.0	157.5	34.8	122.7	51.3	45.4	5.9
	中	8.1	8.6	△ 0.5	13.1	14.9	△ 1.8	2.5	2.7	△ 0.2	32.0	22.6	9.4	51.7	55.7	△ 4.0
	下	4.5	6.4	△ 1.9	11.1	12.4	△ 1.3	-1.7	1.2	△ 2.9	3.5	17.1	△ 13.6	65.0	55.4	9.6
11	上	7.6	4.1	3.5	13.4	9.7	3.7	2.1	-1.1	3.2	25.0	8.3	16.7	45.6	46.9	△ 1.3
	中	1.6	0.4	1.2	5.6	5.4	0.2	-1.4	-4.4	3.0	34.5	13.0	21.5	38.0	41.7	△ 3.7

4. 季節表

項目	前年 根雪始 月日	融雪期 月日	根雪 期間 日数	耕鋤 始 月日	降雪 終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜 期間 日数	降雪 始 月日	農耕期間の積算(5～9月)		
										平均気温 (度)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
本年	12. 5	4. 21	137	5. 7	5. 2	5. 7	10. 14	159	10. 22	2474. 0	559. 0	899. 4
平年	11. 29	4. 10	133	4. 25	4. 29	5. 16	10. 10	145	10. 30	2353. 7	490. 1	636. 3
比較	6	11	4	12	3	△ 9	4	14	△ 8	120. 3	68. 9	263. 1

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦(平成17年9月播種) 作況：不良

事由：播種期はほぼ平年並で、播種後の気温が平年より高く推移したため、出芽期以降の生育は良好で、越冬前の生育は草丈、茎数とも平年を上回った。根雪始は12月5日で平年より6日遅く、融雪期は平年より11日遅い4月21日で、根雪期間は平年より4日長い137日間であった。雪腐病は軽微な発生が認められたが、生育に影響は無かった。融雪期以降、気温は5月中下旬は高温で経過した以外は、概ね低温で経過し、出穂期は早生品種で平年並であったが、やや早生～中生品種では低温の影響を受け、平年より3～4日遅れた。この間の草丈はほぼ平年並で、茎数は分けつの無効化が進み、平年をやや下回っていた。6月下旬以降、天候は回復傾向であったが、7月下旬の気温が平年より低く推移したため、登熟が緩慢となり成熟期は平年より4～5日遅れた。倒伏は強稈性の劣る一部品種で発生したにとどまった。穂数は平年並であったが、穂長は平年よりやや短く、1穂粒数は平年より少ないものと思われた。子実重は平年より低く、特に「タクネコムギ」「ホクシン」では平年の8割程度であった。千粒重は平年並かやや上回った。リットル重は平年並かやや下回った。検査等級は「ホクシン」「ホロシリコムギ」で1等、「タクネコムギ」で2等であった。

以上のことから本年の作況は「不良」である。

調査項目	タクネコムギ			ホクシン			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (平成17年月.日)	9.16	9.15	1	9.16	9.17	△ 1	9.16	9.16	0
出芽期 (平成17年月.日)	9.22	9.24	△ 2	9.22	9.25	△ 3	9.22	9.24	△ 2
出穂期 (平成18年月.日)	6.6	6.6	0	6.13	6.10	3	6.16	6.12	4
成熟期 (平成18年月.日)	7.25	7.20	5	7.27	7.23	4	7.31	7.27	4
草丈(cm) (平成17年11月20日)	23.0	21.9	1.1	23.1	20.0	3.1	23.7	21.1	2.6
草丈(cm) (平成18年5月20日)	41.0	40.8	0.2	40.5	38.7	1.8	40.2	44.3	△ 4.1
草丈(cm) (平成18年6月20日)	105.3	102.3	3.0	90.0	90.9	△ 0.9	91.1	98.0	△ 6.9
茎数(本/m ²) (平成18年11月20日)	2301	2066	235	1896	1615	281	2154	1807	347
茎数(本/m ²) (平成18年5月20日)	1224	1338	△ 114	1217	1307	△ 90	1269	1348	△ 79
茎数(本/m ²) (平成18年6月20日)	923	867	56	749	747	2	741	724	17
稈長(cm) (7月20日)	102	94	8	90	83	7	105	97	8
穂長(cm) (7月20日)	7.0	7.6	△ 0.6	7.6	8.3	△ 0.7	7.8	8.3	△ 0.5
穂数(本/m ²) (7月20日)	822	839	△ 17	706	698	8	685	638	47
子実重(kg/10a)	443	538	△ 95	515	623	△ 108	541	582	△ 41
同上平年比(%)	82	100	△ 18	82	100	△ 18	93	100	△ 7
リットル重(g)	802	808	△ 6	812	814	△ 2	793	807	△ 14
千粒重(g)	40.3	37.3	3.0	40.1	39.0	1.1	43.5	43.5	0.0
品質(検査等級)	2	1	1	1	1	0	1	2	△ 1

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」、「ホクシン」は平成14年(最凶)、15年(最豊)、「ホロシリコムギ」は平成11年(最凶)、15年(最豊)を除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m²、その他の品種の播種量は340粒/m²。

2) 秋まき小麦(平成18年9月播種) 作 況 : 平年並

事 由 : 播種は平年より1~2日早い9月15日に行った。出芽は9月22日で良好であった。出芽期となった9月下旬から10月上旬の気温は平年並からやや高く推移したが、同時期の降水量は平年より多く、特に10月7日から9日までの降水量は合計145.5mmに達し、その後、圃場の土壌水分は高い状態が続いた。また、10月中下旬の気温は平年並から低く推移したため、生育はやや緩慢となった。草丈、茎数は平年を下回っているが、主茎葉数は5枚、茎数は1,600本/m²前後確保し、越冬態勢としては十分である。以上のことから目下の作況は「平年並」である。

調査項目	タクネコムギ			ホクシン			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (平成18年月.日)	9.15	9.16	△ 1	9.15	9.17	△ 2	9.15	9.16	△ 1
出芽期 (平成18年月.日)	9.22	9.23	△ 1	9.22	9.25	△ 3	9.22	9.24	△ 2
草丈(cm) (平成18年11月20日)	16.3	21.8	△ 5.5	16.5	19.6	△ 3.1	17.6	21.1	△ 3.5
茎数(本/m ²) (平成19年11月20日)	1686	2137	△ 451	1515	1690	△ 175	1568	1807	△ 239

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」、「ホクシン」は平成14年(最凶)、15年(最豊)、「ホロシリコムギ」は平成15年(最豊)、18年(最凶)を除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m²、その他の品種の播種量は340粒/m²。

3) 春まき小麦

作 況 : 良

事 由 : 融雪期が遅れたため、播種期は4月27日で平年より5日遅かった。播種後は低温傾向が続き、出芽期は5月9日で平年より3～4日遅れた。そのため、5月は草丈・茎数ともに平年を下回った。

6月上旬以降も生育はやや遅れていたが、栄養生長が延長され、草丈は平年並で茎数が平年よりやや多くなった。出穂期は平年より1週間程度遅れた。7月上旬を除き、日照は少なく経過しており、生育はやや徒長気味となり、稈長は平年より長く、穂長は平年並で、穂数は多くなった。8月上旬の高温により成熟期は平年並となり、登熟期間が短くなった。このため千粒重は軽くなったが、日照時間が多く概ね良好に登熟しており、生育量が多かったことから、子実重は多収となった。検査等級は1等であり、「ハルユタカ」は平年を上回った。

以上のことから本年の作況は良である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.27	4.22	5	4.27	4.22	5	
出芽期 (月.日)	5.9	5.5	4	5.9	5.6	3	
出穂期 (月.日)	6.29	6.22	7	6.28	6.22	6	
成熟期 (月.日)	8.8	8.8	0	8.8	8.7	1	
草丈(cm)	(5月20日)	13.3	17.0	△ 3.7	13.3	18.1	△ 4.8
	(6月20日)	64.5	65.5	△ 1.0	66.7	66.9	△ 0.2
茎数(本/㎡)	(5月20日)	345	457	△ 112	360	434	△ 74
	(6月20日)	724	669	55	808	691	117
稈長(cm) (7月20日)	89	84	5	92	84	8	
穂長(cm) (7月20日)	8.1	8.0	0.1	8.2	8.2	0.0	
穂数(本/㎡) (7月20日)	535	495	40	588	478	110	
子実重(kg/10a)	529	398	131	566	418	148	
同上平年比 (%)	133	100	33	135	100	35	
リットル重 (g)	821	809	12	828	817	11	
千粒重 (g)	39.8	41.2	△ 1.4	41.0	43.5	△ 2.5	
品質 (検査等級)	1	2	△ 1	1	1	0	

注) 「ハルユタカ」の平年値は過去7か年中、平成12年(最凶)、平成17年(最豊)を除く5か年平均。「春よ恋」の平年値は過去5か年中、平成14年(最凶)、平成17年(最豊)を除く3か年平均。

4) とうもろこし 作 況：平年並

事 由：播種期・発芽期は平年より1～2日早かった。6月上～中旬の低温で6月20日の草丈は平年より低かったが、7月上～中旬の高温で生育は回復し、7月20日には草丈は平年並となり、葉数は平年をやや上回った。7月下旬の低温により開花期・抽糸期は平年より1日遅れたが、8月上旬以降の高温で再び生育は回復し、収穫時まで草丈・葉数および稈長は平年並に推移した。収穫期は平年より1日遅い9月25日で、乾物総重および推定TDN収量の平年比はそれぞれ101%、102%であった。総体の乾物率および乾雌穂重割合は平年より高かった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	ディアHT			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.16	5.17	△ 1	
出芽期 (月.日)	5.28	5.30	△ 2	
開花期 (月.日)	8.5	8.4	1	
抽糸期 (月.日)	8.7	8.6	1	
収穫期 (月.日)	9.25	9.24	366	
収穫時の熟度	黄熟中期	黄熟初 ～中期		
草丈(cm)	(6月20日)	20.5	28.4	△ 8
	(7月20日)	125.8	124.0	2
	(8月20日)	256	257	△ 1
稈長(cm) (9月20日)	222	223	△ 1	
葉数(枚)	(6月20日)	3.9	4.1	△ 0
	(7月20日)	12.0	11.2	1
	(8月20日)	13.6	13.7	△ 0
生総重(kg/10a)	5114	5880	△ 766	
乾物茎葉重(kg/10a)	666	733	△ 67	
乾物雌穂重(kg/10a)	836	759	77	
乾物総重(kg/10a)	1502	1492	10	
同上平年比 (%)	101	100	1	
推定TDN収量(kg/10a)	1098	1072	26	
同上平年比 (%)	102	100	2	
総体の乾物率 (%)	29.4	25.6	3.8	
乾雌穂重割合 (%)	55.7	50.9	4.8	
有効雌穂割合 (%)	100.0	99.7	0.3	

注) 平年値は前7か年のうち平成16年(最豊)、17年(最凶)を除く5か年の平均。

推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

5) 大豆

作 況 : 良

事由：平年並の5月24日に播種を行った。播種後は気温が低く、出芽は平年より3日遅かった。出芽後も気温が平年より低く推移したため、生育は停滞し、生育初期の主茎長、本葉数、分枝数は平年をやや下回り、開花始は平年より1～2日遅かった。開花期前後の気温は平年より高く推移し、着莢は良好であった。登熟期間の気温も平年より高く、成熟期は平年より1～2日早く、「トヨコマチ」は9月26日、「トヨホマレ」は9月30日であった。百粒重は「トヨコマチ」、「トヨホマレ」ともに平年並であったが、着莢数が「トヨコマチ」は14%、「トヨホマレ」は24%、それぞれ平年より多かったことから、子実重は「トヨコマチ」は平年より16%、「トヨホマレ」は20%多かった。子実の品質は、両品種ともに平年並であった。

以上のことから本年の作況は「良」である。

調査項目	トヨコマチ			トヨホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.24	0	5.24	5.24	0	
出芽期 (月.日)	6.10	6.7	3	6.10	6.7	3	
開花始 (月.日)	7.21	7.19	2	7.23	7.22	1	
成熟期 (月.日)	9.26	9.27	△ 1	9.30	10.2	△ 2	
主茎長 (cm)	(6月20日)	5.5	10.6	△ 5.1	3.7	7.7	△ 4.0
	(7月20日)	36.4	40.9	△ 4.5	30.6	34.4	△ 3.8
	(8月20日)	55.1	59.0	△ 3.9	51.5	54.4	△ 2.9
	(9月20日)	53.9	58.8	△ 4.9	49.1	53.9	△ 4.8
	(成熟期)	53.9	58.8	△ 4.9	49.1	53.9	△ 4.8
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.1	0.9	△ 0.8	0.1	0.8	△ 0.7
	(7月20日)	5.5	6.4	△ 0.9	5.8	6.4	△ 0.6
主節節数	(8月20日)	10.6	11.2	△ 0.6	10.9	11.4	△ 0.5
	(9月20日)	10.7	11.1	△ 0.4	11.2	11.4	△ 0.2
	(成熟期)	10.7	11.1	△ 0.4	11.2	11.4	△ 0.2
分枝数 (本/株)	(7月20日)	2.1	2.6	△ 0.5	1.3	2.3	△ 1.0
	(8月20日)	6.9	5.4	1.5	5.4	4.7	0.7
	(9月20日)	6.7	5.2	1.5	5.1	4.7	0.4
	(成熟期)	6.7	5.2	1.5	5.1	4.7	0.4
着莢数 (個/株)	(8月20日)	73.4	67.7	5.7	89.0	75.5	13.5
	(9月20日)	72.6	63.1	9.5	90.9	73.5	17.4
	(成熟期)	72.6	63.1	9.5	90.9	73.5	17.4
子実重 (kg/10a)	381	328	53	401	335	66	
同上平年比 (%)	116	100	16	120	100	20	
百粒重 (g)	31.5	31.9	△ 0.4	28.9	30.3	△ 1.4	
屑粒率 (%)	0.3	0.7	△ 0.4	0.0	0.7	△ 0.7	
品質 (検査等級)	2下	2下	—	3中	3中	—	

注) 平年値は、前7か年中平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 小豆

作況：良

事由：平年より2日遅い5月24日に播種を行った。播種後は気温が低く、出芽は平年より10日遅かった。出芽後も気温が平年より低く推移したため、生育は停滞し、生育初期の主茎長、本葉数、分枝数は平年をやや下回り、開花始は平年より3日遅かった。開花期前後の気温は平年より高く推移し、着莢は良好であった。登熟期間の気温も平年より高く推移したが、開花後期に着莢した花があったため、成熟期は平年より6～12日遅く、「エリモシヨウズ」は10月9日、「サホロシヨウズ」は9月24日であった。百粒重は「エリモシヨウズ」、「サホロシヨウズ」ともに平年よりやや軽いが、着莢数が「エリモシヨウズ」は約30%、「サホロシヨウズ」は約15%、それぞれ平年より多かったことから、子実重は「エリモシヨウズ」は平年より23%、「サホロシヨウズ」は27%多かった。子実の品質は、両品種ともにほぼ平年並であった。

以上のことから本年の作況は「良」である。

調査項目	エリモシヨウズ			サホロシヨウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.22	2	5.24	5.22	2	
出芽期 (月.日)	6.18	6.8	10	6.17	6.7	10	
開花始 (月.日)	7.29	7.26	3	7.27	7.24	3	
成熟期 (月.日)	10.9	9.27	12	9.24	9.18	6	
主茎長 (cm)	(6月20日)	2.2	4.1	△ 1.9	2.0	3.9	△ 1.9
	(7月20日)	12.0	14.5	△ 2.5	11.6	13.7	△ 2.1
	(8月20日)	51.7	55.1	△ 3.4	50.5	46.2	4.3
	(9月20日)	63.5	59.0	4.5	57.6	47.4	10.2
	(成熟期)	63.5	59.0	4.5	57.6	47.4	10.2
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.0	0.4	△ 0.4	0.0	0.6	△ 0.6
	(7月20日)	4.6	5.3	△ 0.7	4.7	5.2	△ 0.5
主節節数	(8月20日)	14.0	13.1	0.9	12.6	11.0	1.6
	(9月20日)	14.8	13.6	1.2	13.9	11.0	2.9
	(成熟期)	14.8	13.6	1.2	13.9	11.0	2.9
分枝数 (本/株)	(7月20日)	0.2	0.8	△ 0.6	0.3	1.4	△ 1.1
	(8月20日)	3.8	4.0	△ 0.2	3.8	4.4	△ 0.6
	(9月20日)	3.7	3.4	0.3	3.1	4.0	△ 0.9
	(成熟期)	3.7	3.4	0.3	3.1	4.1	△ 1.0
着莢数 (個/株)	(8月20日)	40.1	33.9	6.2	48.5	42.6	5.9
	(9月20日)	59.6	45.8	13.8	54.8	47.1	7.7
	(成熟期)	61.8	47.1	14.7	54.8	48.1	6.7
子実重 (kg/10a)	472	383	89	407	320	87	
同上平年比 (%)	123	100	23	127	100	27	
百粒重 (g)	14.0	15.7	△ 1.7	14.2	16.5	△ 2.3	
屑粒率 (%)	2.2	3.2	△ 1.0	1.2	4.7	△ 3.5	
品質 (検査等級)	4上	4上	—	4上	3下	—	

注) 平年値は、前8か年中平成10年(最凶)、17年(最豊)および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

7) 菜豆

作 況 : 良

事由：平年より1日遅い5月24日に播種を行った。播種後は気温が低く、出芽は平年より4～5日遅かった。出芽後も気温が平年より低く推移したため、生育は停滞し、生育初期の主茎長、本葉数、分枝数は平年をやや下回り、開花始は平年より3日遅かった。開花期前後の気温は平年より高く推移し、着莢数は平年よりやや多く推移した。登熟期間の気温も平年より高く、成熟期は平年より1日早く、「大正金時」は9月2日、「福勝」は9月7日であった。百粒重は「大正金時」、「福勝」とともに平年よりやや軽かったが、着莢数は両品種共にやや平年より多かった。子実重は「大正金時」は平年より9%、「福勝」は7%多かった。ただし、北見農試圃場ではインゲン黄化病の発生が多く、約2割の個体に発病が見られた。子実の品質は、平年よりやや劣った。

以上のことから本年の作況は「良」である。

調査項目	大正金時			福勝			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.24	5.23	1	5.24	5.23	1	
出芽期 (月.日)	6.11	6.7	4	6.13	6.8	5	
開花始 (月.日)	7.10	7.7	3	7.12	7.9	3	
成熟期 (月.日)	9.2	9.3	△ 1	9.7	9.8	△ 1	
主茎長(cm)	(6月20日)	6.6	10.3	△ 3.7	7.1	9.2	△ 2.1
	(7月20日)	31.9	35.8	△ 3.9	30.8	36.4	△ 5.6
	(8月20日)	36.3	40.1	△ 3.8	37.3	42.4	△ 5.1
	(9月20日)	36.3	42.0	△ 5.7	37.3	44.2	△ 6.9
	(成熟期)	36.3	42.0	△ 5.7	37.3	44.2	△ 6.9
本葉数(枚)	(6月20日)	0.2	0.9	△ 0.7	0.2	0.9	△ 0.7
	(7月20日)	3.1	3.4	△ 0.3	3.3	3.6	△ 0.3
主節節数	(8月20日)	5.1	5.4	△ 0.3	5.3	5.7	△ 0.4
	(9月20日)	5.1	5.4	△ 0.3	5.3	5.6	△ 0.3
	(成熟期)	5.1	5.4	△ 0.3	5.3	5.6	△ 0.3
分枝数(本/株)	(7月20日)	3.0	4.1	△ 1.1	2.6	3.6	△ 1.0
	(8月20日)	3.7	4.5	△ 0.8	3.8	4.0	△ 0.2
	(9月20日)	3.7	4.0	△ 0.3	3.8	3.8	0.0
	(成熟期)	3.7	4.0	△ 0.3	3.8	3.9	△ 0.1
着莢数(個/株)	(8月20日)	23.6	22.4	1.2	21.0	20.7	0.3
	(9月20日)	22.7	19.2	3.5	19.0	18.0	1.0
	(成熟期)	22.7	19.2	3.5	19.0	18.0	1.0
子実重(kg/10a)	342	314	28	377	352	25	
同上平年比 (%)	109	100	9	107	100	7	
百粒重 (g)	69.5	74.1	△ 4.6	85.5	89.3	△ 3.8	
屑粒率 (%)	7.9	3.8	4.1	5.0	4.8	0.2	
品質 (検査等級)	4中	2下	—	4上	3中	—	

注) 平年値は、前8か年中平成11年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

8) ばれいしょ

作 況 : 良

事 由 :

植え付けはほぼ平年並の5月12日に行った。萌芽期は、植え付け後の高温とまとまった降水により、平年より「男爵薯」で1日、「コナフブキ」で3日早かった。萌芽後の生育は低温・寡照に推移し、開花始はほぼ平年並であった。茎長は、「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年並となったが、「男爵薯」では伸長の推移も平年並であったのに対し、「コナフブキ」は7月上中旬の高温・旱魃で抑制気味であった後、8月以降も伸長が進行した。枯凋期は、「男爵薯」はほぼ平年並の9月4日であったが、「コナフブキ」では水分が多い状態が続き、枯凋が進まなかったため9日遅い10月13日であった。「男爵薯」は、上いも数が少なかったものの上いも1個重が大きく、上いも重は平年並（平年比101%）となった。中晩生の「コナフブキ」は、8月の十分な降水、9月以降の塊茎肥大に適切な温度条件および枯凋期の遅れにより、上いも一個重が平年より大きくなったため、上いも重は平年を18%上回った。でん粉価は、6月上旬の寡照、夏期の高温および8月中旬の大雨以降土壌が湿潤な状態が続いた影響を受け、「男爵薯」、「コナフブキ」とも平年を下回ったが、「コナフブキ」では上いも重が多収であったことからでん粉重は平年比113%となった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.12	5.11	1	5.12	5.13	△ 1	
萌芽期 (月.日)	5.30	5.31	△ 1	5.30	6.2	△ 3	
開花始 (月.日)	7.1	6.30	1	6.29	6.30	△ 1	
枯凋期 (月.日)	9.4	9.6	△ 2	10.13	10.4	9	
茎長(cm)	(6月20日)	17.6	18.6	△ 1.0	17.9	16.6	1.3
	(7月20日)	40	37	3	62	69	△ 7
	(8月20日)	41	38	3	79	80	△ 1
茎数(本/株)	(6月20日)	2.6	3.3	△ 0.7	2.7	2.6	0.1
	(7月20日)	2.9	3.5	△ 0.6	3.1	2.9	0.2
	(8月20日)	2.7	3.4	△ 0.7	2.8	2.7	0.1
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	4477	4036	441	3438	3398	40
	(9月20日)	—	—	—	5134	4340	794
でん粉価(%)	(8月20日)	15.9	16.3	△ 0.4	19.6	21.6	△ 2.0
	(9月20日)	—	—	—	21.1	22.9	△ 1.8
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	1034	944	90	
上いも数(個/株)	8.0	9.6	△ 1.6	9.4	9.3	0.1	
上いも1個重(g)	118	96	22	133	111	22	
上いも重(kg/10a)	4203	4182	21	5500	4662	838	
同上平年比(%)	101	100	1	118	100	18	
でん粉価(%)	15.3	16.0	△ 0.7	21.7	22.7	△ 1.0	
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	1139	1011	128	
同上平年比(%)	—	—	—	113	100	13	

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15(最凶)、17年(最豊)を、「コナフブキ」は平成14(最豊)、15年(最凶)を除く5か年の平均

9) てんさい

作 況 : 良

事由：移植栽培の播種期は平年より6日早い3月20日に行った。移植は、平年並の5月9日に行った。その後、低温寡照が続いたため、初期生育は平年より劣った。6月下旬以降、好天が続いて徐々に生育は回復したが、茎葉生長速度の最も高い7月下旬に低温、乾燥が続いたため、地上部の生長は抑制された状態で推移した。8月の高温時にも萎れは観察されず、短期間にまとまった降雨があったため、地下部の肥大は急速にすすんだ。登熟期間中は降水量が極めて多かったため、根中糖分の伸びは鈍かった。収穫は平年並の10月18日に行い、移植栽培では2品種平均で根重は平年比115%、根中糖分は平年比97%、糖量は平年比111%、直播栽培では糖量は平年比107%となり、移植栽培、直播栽培共に平年を大きく上回った。

以上のことから本年の作況は「良」である。

調査項目	移植						直播			
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較		平年	比較	
播種期 (月.日)	3.20	3.26	△ 6	3.20	3.26	△ 6	5.9	5.8	1	
移植期 (月.日)	5.9	5.7	2	5.9	5.8	1		—		
出芽期 (月.日)		—			—		5.18	5.19	△ 1	
収穫期 (月.日)	10.18	10.20	△ 2	10.18	10.19	△ 1	10.18	10.19	△ 1	
草丈 (cm)	(6月20日)	23.1	29.5	△ 6.4	24.5	29.3	△ 4.8	10.9	14.7	△ 4
	(7月20日)	49.0	57.1	△ 8.1	44.8	54.7	△ 9.9	44.6	51.4	△ 7
	(8月20日)	54.5	64.6	△ 10.1	51.6	60.6	△ 9.0	58.3	64.8	△ 7
	(9月20日)	58.1	65.6	△ 7.5	54.7	60.8	△ 6.1	61.7	67.2	△ 5.5
生葉数 (枚)	(6月20日)	10.9	12.0	△ 1.1	11.3	11.3	0.0	5.0	7.5	△ 3
	(7月20日)	21.0	21.9	△ 0.9	19.3	20.6	△ 1.3	19.7	19.9	△ 0
	(8月20日)	28.2	27.8	0.4	28.3	26.4	1.9	26.1	25.9	0
	(9月20日)	30.5	31.0	△ 0.5	31.5	29.2	2.3	25.3	29.4	△ 4.1
茎葉重 (g/個体)	(6月20日)	65	138	△ 72.8	79	122	△ 43.1	5	16	△ 12
	(7月20日)	545	695	△ 150.0	479	665	△ 186.0	380	492	△ 112
	(8月20日)	731	957	△ 226.0	793	961	△ 168.0	755	881	△ 126
	(9月20日)	811	967	△ 156	959	948	11	737	908	△ 171
根重 (g/個体)	(6月20日)	9	27	△ 17.9	13	25	△ 12.4	0	2	△ 2
	(7月20日)	274	266	8.0	284	291	△ 7.0	126	130	△ 4
	(8月20日)	718	565	153.0	711	613	98.0	455	421	34
	(9月20日)	942	840	102	1007	861	146	718	690	28
根周 (cm)	(7月20日)	21.9	21.5	0.4	22.9	23.2	△ 0.3	17.0	16.9	0
	(8月20日)	31.6	27.9	4	32.3	30.4	2	25.6	25.0	1
	(9月20日)	34.1	33.0	1.1	37.4	34.4	3.0	30.5	29.7	0.8
根中糖分 (%)	(9月20日)	15.24	15.09	0.15	15.39	15.26	0.13	15.18	14.67	0.51
茎葉重 (kg/10a)	(収穫期)	4976	6303	△ 1327	6020	5931	89.0	4576	5588	△ 1012
根重 (kg/10a)	(収穫期)	7101	6380	721	7936	6674	1262	5793	5462	331
同上平年比 (%)		111	100	11	119	100	19	106	100	6
根中糖分 (%)	(収穫期)	16.98	17.04	△ 0.06	16.75	17.76	△ 1.01	16.77	17.09	△ 0.32
同上平年比 (%)		100	100	0	94	100	△ 6	98	100	△ 2
糖量 (kg/10a)	(収穫期)	1204	1085	119	1329	1192	137	971	905	66
同上平年比 (%)		111	100	11	111	100	11	107	100	7

注) 平年値は前7か年中、直播「モノホマレ」は平成11年、16年、移植「モノホマレ」は平成11年、17年、「アーベント」は平成11年、16年をそれぞれ除く5か年の平均。

10) 牧草(チモシー)

作況: 平年並

事由: 萌芽期は平年よりやや遅く、冬損程度は平年よりやや高かった。1番草は、生育期間中が5月中旬を除き概ね低温・多雨だったため、出穂始・出穂期および収穫期は平年より5～6日遅れたが、低温・湿潤を好むチモシーの草丈は平年を上回り、乾物収量の平年比も123%と多かった。しかし2～3番草は、生育期間中が7月下旬を除き概ね平年より高温だったため、乾物収量の平年比は2番草が50%、3番草が88%と少なかった。年間合計乾物収量の平年比は100%であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	ノサップ			
	本年	平年	比較	
萌芽期 (月.日)	4.21	4.17	4	
冬損程度	2.0	1.3	0.7	
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	99	1
出穂始 (月.日)	6.17	6.11	6	
出穂期 (月.日)	6.23	6.17	6	
出穂程度 1番草	4.0	6.1	△ 2.1	
節間伸長程度 2番草	3.0	3.6	△ 0.6	
刈取日	1番草	6.23	6.18	5
	2番草	8.11	8.7	4
	3番草	10.5	10.6	△ 1
倒伏程度 1番草	2.8	2.4	0.4	
病害罹病程度	1番草	2.0	1.4	0.6
	2番草	3.0	3.4	△ 0.4
	3番草	3.5	4.5	△ 1.0
草丈(cm)	(5月18日)	35	39	△ 4
	(6月5日)	72	74	△ 2
	1番草	112	97	15
	2番草再生時	32	37	△ 5
	2番草	50	68	△ 18
	3番草再生時	43	42	1
生草収量(kg/10a)	3番草	51	45	6
	1番草	3806	2696	1110
	2番草	555	1179	△ 624
	3番草	542	758	△ 216
	合計	4903	4633	270
乾物率(%)	1番草	20.7	24.5	△ 3.8
	2番草	23.4	22.2	1.2
	3番草	28.8	24.8	4.0
乾物収量(kg/10a)	1番草	790	641	149
	2番草	130	259	△ 129
	3番草	156	177	△ 21
	合計	1076	1077	△ 1

注) 平年値は前4か年の平均(耕種概要・調査項目が大幅に変更されたため)。

倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。

8) たまねぎ

作 況：やや不良（参考）

事 由：播種期は晩生種「スーパー北もみじ」では平年より4日早い3月9日、早生種「改良オホーツク1号」では平年より6日早い3月3日であった。育苗期間中はやや低温に推移したが苗生育は順調であった。移植期は「スーパー北もみじ」では平年より1日早い5月12日、「改良オホーツク1号」では平年より5日早い5月6日であった。移植時の苗質は2品種ともほぼ平年並であった。移植直後の5月中旬は平均気温が高く、日照時間は多く、降水量は平年並であったため苗の活着は順調であった。7月下旬から8月上旬まで続いた干ばつ、8月上旬からの高温により茎葉の生育および球肥大は停滞し、球肥大期は平年に比べ「改良オホーツク1号」では平年並の7月8日、「スーパー北もみじ」では3日遅い7月24日であった。8月上旬以降、地上部には葉先枯れ症状が目立った。倒伏期は「改良オホーツク1号」では平年より3日早い8月1日、「スーパー北もみじ」では平年より1日早い8月12日であった。「スーパー北もみじ」の規格内率が平年をやや上回ったものの、総収量、規格内収量および平均一球重は両品種とも平年をやや下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.3	3.9	△ 6	3.9	3.13	△ 4	
出芽期 (月.日)	3.16	3.21	△ 5	3.22	3.27	△ 5	
移植期 (月.日)	5.6	5.11	△ 5	5.12	5.13	△ 1	
球肥大期 (月.日)	7.8	7.8	0	7.24	7.21	3	
倒伏期 (月.日)	8.1	8.4	△ 3.0	8.12	8.13	△ 1.0	
枯葉期 (月.日)	8.20	8.26	△ 6	9.4	9.9	△ 5	
収穫期 (月.日)	8.22	9.8	△ 17	9.8	9.16	△ 8	
草丈(cm)	(5月20日)	26.2	26.2	0.0	25.4	22.2	3.2
	(6月20日)	49.9	34.3	15.6	30.4	32.9	△ 2.5
	(7月20日)	73.3	70.0	3.3	79.7	74.4	5.3
生葉数(枚)	(5月20日)	3.2	3.1	0.1	3.2	3.0	0.2
	(6月20日)	6.3	5.2	1.1	5.6	5.3	0.3
	(7月20日)	8.6	9.2	△ 0.6	10.7	10.2	0.5
葉鞘径(mm)	(5月20日)	4.2	3.9	0.3	4.0	4.0	0.0
	(6月20日)	11.2	8.4	2.8	7.9	8.1	△ 0.2
	(7月20日)	19.3	18.4	0.9	20.9	19.8	1.1
葉身生重(g) (7月20日)	109.9	85.5	24.4	134.5	105.2	29.3	
球生重(g)	(7月20日)	121.2	77.2	44.0	50.9	45.1	5.8
	(8月20日)	209.0	227.6	△ 19	245.2	248.6	△ 3
葉身乾物率(%) (7月20日)	8	8.0	△ 0	7.5	8.4	△ 1	
総収量(kg/10a)	6591	6694	△ 103	7754	8223	△ 469	
規格内収量(kg/10a)	5796	6026	△ 230	6769	6892	△ 123	
同上平年比(%)	96	100	△ 4	98	100	△ 2	
規格内率(%)	88	90	△ 2	87	84	3	
平均一球重(g)	209	213	△ 4	245	261	△ 16	

注) 平均値は、沖積土壌で試験を開始した平成15年から17年までの3カ年の平均。